

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00732

研究課題名(和文) 留学初年次から使用可能なキャリア形成支援教材の開発

研究課題名(英文) development of career development support materials that can be used from the first year of study abroad

研究代表者

菅長 理恵 (SUGANAGA, Rie)

東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授

研究者番号：50302899

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：研究課題である「留学初年次から使えるキャリア形成支援教材の開発」を目標として、インタビュー調査、エピソード教材およびタスク教材の作成と試用、実践研究を重ねた。研究成果の発信として、期間中に合計10本の論文を発表し、合計10回の学会発表等を行った。コロナ禍により、予定していた意見交換のためのワークショップ等が開催できず、最終成果物刊行のため、当初2021年度までだった研究期間を1年延長した。最終年度の2022年12月には、『留学生・大学生のためのエピソードとタスクから描く私のキャリアプラン 課題発見解決力と人間関係構築力を育てる』を凡人社から刊行し、研究課題を達成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

最終成果物であるキャリア形成支援教材は、外国人留学生、日本人学生双方に、留学前あるいは留学後早い段階からキャリア形成意識を持ち、留学生生活を有意義に過ごすための道しるべを見つけることを促すものである。同時に、社会の中で必要とされる「課題発見解決能力」や「人間関係構築力」を養成することも企図している。エピソード教材が元留学生の具体的な体験談に基づいている点に独自性があり、学生が自らに引きつけて考えることができるため、高い効果が見込まれるものとなっている。

研究成果の概要(英文)：With the research theme of "development of career development support materials that can be used from the first year of study abroad," we conducted interview surveys, created and tested teaching materials, and conducted a series of practical studies. As dissemination of research results, a total of 10 papers were published and a total of 10 conference presentations were made during the period. Due to the Corona disaster, the planned workshops for exchanging opinions could not be held, and the research period was extended for one year from the original FY2021 period in order to publish the final results. In December 2022, the final year of the project, we were able to publish "Envisioning My Career Plan through Episodes and Tasks" from Bonjinsha, thus fulfilling the research theme.

研究分野：日本語教育

キーワード：キャリア形成支援 留学生 タスク 教材開発 国際共修

1. 研究開始当初の背景

本研究は、挑戦的萌芽研究 26580092「文部科学省国費学部留学生のキャリア形成 グローバル人材のロールモデル」(2014-04-01 - 2017-03-31)の成果を踏まえている。同研究は、国費学部留学生のインタビュー調査に基づき、グローバル人材に求められる資質、働き方の鍵となる多文化性、学部・大学院時代に身につけた能力の活用、直面する困難点と克服方法等について明らかにしたものである。同時に、留学生のキャリア形成支援教育および教材についての調査を行い、二つの課題を見出した。一つは、留学生に特化したキャリア教育教材がないことであり、もう一つは、目的意識が明確でない学生が留学で十分な成果をあげられていないということであった。つまり、早い段階で目的意識(キャリア形成意識)を持たせ、留学生生活を有用なものにするための教育および教材開発が求められていることが明らかになったのである。これを受けて、教材開発に着手することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、キャリア形成支援教材の開発である。教材の目的は大きく二つに分けられる。一つは、留学前もしくは留学の早い段階において、学生の「キャリア形成意識」を育て、学生自身に留学生生活を有意義に過ごすための道しるべを発見させることである。もう一つは、キャリアを切り開いていくために必要な「課題発見・解決能力」と「人間関係構築力」を養成することである。これら二つの力は、上記の挑戦的萌芽研究の中で明らかになった、グローバル人材の鍵となる能力であり、また、時間をかけて養成することが必要なものである。

キャリア形成の道筋は人それぞれであり、学生自身が自ら切り開いていくべきものである。本教材が目指す「キャリア形成意識」、「課題発見・解決能力」、「人間関係構築力」の養成は、その際の土台となると考えられる。

3. 研究の方法

本研究では、上記の二つの目的を達成するために、エピソード教材およびタスク型・プロジェクト型教材を開発することとした。前者は、留学経験者へのインタビュー調査に基づき、体験談として構成した。学生が、先輩留学生たちの体験談を読み、クラスメートと話し合うことを通して、エピソードの内容を自分に引きつけ、自分ならどうするかを考えさせることを企図している。後者は、まず、エピソード教材とからめた3つのカテゴリのタスク教材を設計した。

(1) コミュニケーションタスク

(例: スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイなど)

(2) キャリアタスク

(例: グローバル人材の資質という観点から自分自身の強みや弱みを知ること、キャリアプランの作成、効果的な自己PRの練習、ワーク・ライフ・バランスの検討など)

(3) ソーシャルタスク

(例: 人間関係構築のための会話の話題選択やコミュニティ参加のための暗黙のルール)

を考える、世界を広げるためのネットワーク形成など)

これらに加えて、エピソード教材から独立した形でのプロジェクトとして、4種の教材を作成した。

- (1)話し合いの分析と実践
- (2)敬語表現の観察と報告
- (3)発表と司会進行
- (4)インタビューの分析と実践

作成した教材は、東京外国語大学内の複数のプログラムで試用したほか、学外の日本語学校などでも試用してもらい、実践研究を通して効果の確認、教材の改訂につなげた。

4. 研究成果

研究成果の発信として、期間中に合計10本の論文を発表し、合計10回の学会発表等を行った。発信内容は、インタビュー調査に基づくエピソード教材の作成に関するもの、タスク・プロジェクト型教材の開発に関するもの、また、試用版を用いた実践研究を主としている。それらの成果の上に、2022年12月には、最終成果物として『留学生・大学生のためのエピソードとタスクから描く私のキャリアプラン 課題発見解決力と人間関係構築力を育てる』を凡人社から刊行し、研究課題を達成することができた。

教材は、様々な教育現場での汎用性を考慮に入れ、以下の4部構成とした。第1部から第3部のテーマは、留学生のキャリア形成の過程「大学生活～就職活動～就職・仕事」に沿って、ゆるやかな時系列になっている。第4部は、第1部～第3部で学んだことの集大成として、学生が主体的に学ぶプロジェクトから成る。

- 第1部「日本の大学・学校で学ぶ」(読み物とコミュニケーションタスク)
- 第2部「将来のキャリアを考える」(読み物とキャリアタスク)
- 第3部「専門性を高める」(読み物とソーシャルタスク)
- 第4部「プロジェクト編」

日本語習得の途上にある留学生に配慮し、教材は中級前半修了程度の理解しやすい表現での記述を心がけ、漢字語彙にはセクションごとにルビをふった。さらに、教育現場で教材を効果的に使用してもらうため、英語、中国語、ベトナム語による語彙リスト、テキストの音声、タスク・プロジェクトで使用する映像教材、配布用タスクシート、問題の解答や教室活動のヒントおよび参考文献を盛り込んだ教師用ヒント集などの補助教材も作成し、出版社Webページから無料でダウンロードできるようにした。

試用版や、刊行後の教材について、教育現場からは、「日本人学生との共修に活用できる」、「留学生のみならず日本人学生にとっても有用である」、という声をいただいている。教育現場では、様々な文化背景を持つ留学生と、教員との間に考え方のずれが存在し、一方向の指導は難しいのが現状である。本教材は、多文化性を基盤とした多様な体験談や意見交換の機会を多く設けることで、多様性に気付かせ、学生自身に「自分ならどうするか」を考えさせる設計になっている。これにより、教育現場の悩みに対し、多様な価値観の中から「自ら見出していく」という一つの解決策を提示するものになっていると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 中井 陽子、ナカイ, ヨウコ、NAKAI Yoko	4. 巻 102
2. 論文標題 話し合いの仕方の変遷プロセスの分析 - 中国人日本語学習者を対象としたオンライン授業を対象に -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集 (Area and Culture Studies)	6. 最初と最後の頁 99 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/106518	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅長理恵・中井陽子・伊集院郁子	4. 巻 第9号
2. 論文標題 留学生のキャリア形成を考える 日本で研究者として活躍する元留学生の事例よりー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 劉桂萍 (主編)、辺家勝 (副主編) 『日本語教育論集』国際シンポジウム篇 中国赴日本国留学生予備学校日本語教育研究会, 東北師範大学出版社,	6. 最初と最後の頁 pp.71-83.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子	4. 巻 第9号
2. 論文標題 キャリア形成と人間関係構築のための授業実践 - 2019年度中国赴日本国留学生予備教育における団長授業での試み -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 劉桂萍 (主編)、辺家勝 (副主編) 『日本語教育論集』第9号国際シンポジウム篇 中国赴日本国留学生予備学校日本語教育研究会, 東北師範大学出版社	6. 最初と最後の頁 pp.84-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤茉奈花・夏雨佳・中井陽子	4. 巻 第24巻第2号
2. 論文標題 日中初対面接触場面の二者会話と三者会話に関する事例分析 - 話題開始の発話とフォローアップ・インタビューから見る非母語話者の理解・参加の比較 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会言語科学	6. 最初と最後の頁 pp.21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子・丁一然・夏雨佳	4. 巻 第2号
2. 論文標題 オンライン日中交流会の利点と留意点 日本留学を目指す中国人学習者と日本の学部・大学院生の感想の分析をもとに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際日本学研究	6. 最初と最後の頁 pp.113-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117206	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅長理恵・中井陽子・伊集院郁子	4. 巻 1
2. 論文標題 日本留学直前の博士課程予備教育におけるキャリア形成支援教育の実践 医学系分野に特化した教材の試用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際日本学研究	6. 最初と最後の頁 170-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/100127	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子	4. 巻 101
2. 論文標題 話し合いの会話データ分析活動における学び - 日本人学生と外国人留学生が参加する学部授業の分析 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/95717	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子・夏雨佳	4. 巻 1
2. 論文標題 談話技能教育における「研究と実践の連携」の循環プロセス 中国人日本語学習者と日本人学生が参加するオンライン会話倶楽部の活用焦点を当てて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際日本学研究	6. 最初と最後の頁 84-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/100121	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子・菅長理恵・渋谷博子	4. 巻 プレ創刊号
2. 論文標題 先輩留学生の体験談を読む活動における教師の役割 - 話し合いの発話の分析をもとに -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外国語大学 国際日本学研究	6. 最初と最後の頁 98-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/94469	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中井陽子・菅長理恵・伊集院郁子・渋谷博子	4. 巻 105号
2. 論文標題 キャリア形成支援教材『エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン』の設計と特徴 - タスクとプロジェクトに焦点を当てて -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 175-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/120762	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件(うち招待講演 2件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 中井陽子・丁一然・夏雨佳
2. 発表標題 オンライン日中交流会の可能性 日本留学を目指す中国人学習者と日本の学部・大学院生の交流
3. 学会等名 第57回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 夏雨佳・中井陽子
2. 発表標題 日本語のナラティブの協働構築における参加者の意識と話題展開の分析 母語話者同士で語る留学中の苦勞話による人間関係促進のあり方の探求
3. 学会等名 第46回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井陽子・大場美和子・寅丸真澄
2. 発表標題 会話データ分析の教材開発と授業実践を考える - 教師と学生による「研究と実践の連携」の可能性 -
3. 学会等名 社会言語科学会第46回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井陽子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成とその支援教育
3. 学会等名 東北師範大学赴日本国留学生予備学校特別講義（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井陽子
2. 発表標題 話し合いの技能を高める活動の試み - 中国人日本語学習者を対象としたオンライン授業の分析 -
3. 学会等名 韓国日語教育学会・言語文化教育研究会共同開催（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井陽子
2. 発表標題 中井陽子（2019）「キャリア形成と人間関係構築のための授業実践 - 2019年度中国赴日本国留学生予備教育における団長授業での試み -
3. 学会等名 中国赴日本国留学生予備学校創立四十周年及び中日両国言語教育と文化交流シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅長理恵・中井陽子・伊集院郁子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成を考える 日本で研究者として活躍する元留学生の事例よりー
3. 学会等名 中国赴日本国留学生予備学校創立四十周年及び中日両国言語教育と文化交流シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井陽子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成とその支援教育
3. 学会等名 東北師範大学赴日本国留学生予備学校特別講義（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井陽子，菅長理恵，伊集院郁子，渋谷博子
2. 発表標題 留学生と日本人学生のキャリア形成支援のための教材設計 タスクとプロジェクトとに焦点を当てて
3. 学会等名 第59回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菅長理恵，寅丸真澄，渋谷博子，伊集院郁子，中井陽子
2. 発表標題 留学生のキャリア形成支援の現状と展望 自身で成長する核を作る
3. 学会等名 2022年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 菅長理恵・中井陽子・渋谷博子・伊集院郁子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 凡人社	5. 総ページ数 168
3. 書名 留学生と大学生のための エピソードとタスクから描く私のキャリアプラン	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	中井 陽子 (NAKAI Yoko) (60398930)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授 (12603)	
研究 分担者	伊集院 郁子 (IJUIN Ikuko) (20436661)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・教授 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------